

日本での交換留学

北京外国語大学

コウ・エン

北京外国語大学からのコウエンと申します。今年の4月にお茶大に入学し、今週をもちまして、交換留学が終了となりました。振り返って見れば実に短い間ですが、色々と見学させてもらい、収穫のある一学期でした。出会った多くの方々に、言葉にしても伝えきれない感謝の気持でいっぱいです。

何度か日本に旅行したことがありますが、いざここで暮らしてみようとなった時は、やはり不慣れなことが山ほどあって、最初の頃は大変だったのを覚えています。特に、レストランで注文の仕方に戸惑った時、同じくアジア人の外見なので、パッと見れば外国人だと思われず、「頭の回転が遅い日本人か」という勘違いを起こして、店員さんを困惑させたことがあります。もちろん、しっかり「外国人です」と伝えたら、丁寧に接していただきました。というふうに、最初の頃は手こずったとはいえ、慣れようとしながら新鮮な感覚を味わいました。日本人の皆様は、おもてなしの心を重視し、こまめに実行しているのを日々見受けられて、とても感心しました。

学業では、指導教官の藤川先生の授業に通うことで、研究視野を広めた気がします。母校側には、近世文学専攻の先生がいませんので、こちらでは修士論文の研究について助言をいただけて、とてもありがたいです。また、土山玄先生が担当なさる『計量文献学』も、文学作品をデータ化して分析する学問であり、やや難しくても斬新に思いながら聞かせていただきました。他に聴講させていただいた授業の先生方も学問に献身的で、おかげで修士論文を無難に書き上げるでしょ...



また、課外時間では、お友達と国内のあちこちを探索したり、料理を作ってみたりしていました。日本に来てから最も感じたことは、空が綺麗だということです。予想もつかない色に変換するし、雲もいろんな形をしているし、とにかく故郷が内陸の町である人間からしては貴重なことなので、旅中に遭遇した綺麗な空をたくさん撮らせていただきました。料理を作るのも、スーパーによれば、馴染みのない調味料と具材がいっぱい並んであり、せっかくなので日本料理のレシピを調べて作ってみました。一回は中国の節句の端午節のため、ちまきも一緒に作って祝いました。

というふうに、時には忙しく、時にはダラダラして留学生生活を満喫していたら、あっという間にお別れの時間が訪れました。やはり少し寂しい気分です。短い間ですが、研究上数多くのひらめきを与えてくださった藤川先生と授業担当の先生方、生活上色々サポートしてくださった国際課の先生方、特にメールの書き方までご丁寧に指導してくださった萩原先生、それから優しく接してくださった音羽館の管理人様と交換留学生仲間の皆様、お世話になりました。皆様方のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。また何処かでお会いすることを期待しております。どうもありがとうございました。